

第7回 JaCVAM 運営会議議事録

日 時：平成 19 年 9 月 10 日（月）15：00-16：40

場 所：国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 会議室

出席者：井上 達（センター長）、大野泰雄（副所長）、中澤憲一（薬理部）、小島 肇（室長）、
増田光輝（客員研究員） 以上順不同、敬称略

議題：

1. 先回議事録確認

井上運営委員長の司会のもと、配布資料の確認を行うとともに、資料 1 を用い、先回議事録を確認した。特に指摘事項はなかった。

2. JaCVAM 顧問会議の議事確認

配布資料 2～8 が顧問会議の資料であると小島委員より説明がなされ、大まかな内容を確認した。この資料をもとに小島委員が「動物実験代替法および JaCVAM の現状」および「JaCVAM Update および WC6 報告」について説明して顧問に現状認識を深めて頂いた後、大野委員の司会のもと顧問会議の役割、JaCVAM に対する要望などについて意見交換して頂く予定であるとされた。大野委員より、資料 5 の JaCVAM の記載の中に構成、予算などを書き込むよう提案がなされた。

3. JaCVAM 検討中の代替試験法の進捗について

資料 8 を用いて、JaCVAM 検討試験の進捗について小島委員より紹介があった。この中で、眼刺激性試験代替法について日本における第三者評価を始めたいとの意思が示され、資料 10 に示す応募書が提出された。欧米で評価された方法以外にも、細胞毒性試験のガイダンスを厚生労働省に再認識して頂く良い機会にしたいとの意見が受入れられ、運営委員会として実施が承認された。

次に、資料 9 を用いて、今後の JaCVAM の予定が小島委員より紹介された。欧米との連携を深めていくとともに、WC6 で深まった韓国、中国との協調も必要であることから共同研究やシンポジウムの共同開催などを学会と共同で進めていきたいとされた。

4. その他

井上委員長より、動物愛護団体より国立衛研に実験計画と報告書の開示要求が届いており、実験動物委員会にて対応を急いでいると説明があった。個人情報保護、特許申請・行政施策・自由な発想の妨げ、公務員の研究という国民の財産の損出などの視点で個々の研究者に項目の塗り潰し作業を依頼しているが、塗り潰せば責任者である所長が控訴される可能性があり、全開示なら物品供与を受けている企業より訴えられる可能性がある。塗り潰しには明確な理由が必要であり、難しい選択を迫られていると説明された。

WC6 にて来日した EU の担当者に動物実験代替法の基礎研究を共同プロジェクトで開始したいとの提案を受けたと大野委員より紹介があった。厚生労働省の前向きな対応が待たれると説明された。

以上

配布資料一覧：

- 1) 第6回 JaCVAM 運営会議議事録(案)
- 2) 第2回 JaCVAM 顧問会議議事次第
- 3) 委員リスト
- 4) 第1回会議議事録
- 5) 動物実験代替法を取り巻く内外の動きと今後の方向性
- 6) Japanese Center for the Validation of Alternative Methods : JaCVAM 運営規則案
- 7) JaCVAM Update および WC6 報告
- 8) 2007年9月現在の JaCVAM 検討中の代替試験法
- 9) 今後の JaCVAM の予定
- 10) 新規試験法評価応募書